

# 林業試験地から 森林技術・支援センター

新年号（175号）からの継続で高齢級の試験地を紹介いたします。

茨城県有数の林業地である久慈郡大子町上岡にある「中の内沢国有林」内の、林齢218年のスギ人工林展示林（写真1）です。この展示林の区域面積は1.47haあり、ha当たり175本が生育し、平成28年12月の



プロット調査では、平均胸高直径約72cm、平均樹高38mで1027m<sup>3</sup>/haの蓄積となっています。【写真1】

このスギが、二百年前に植栽されたスギであることは、旧大子営林署の学術資料に、江戸時代（元号：令和から17代さかのぼる寛政年間）に植栽した記録と、伐採後の年輪（写真2）との突合から推定したものです。

林齢二百年以上となれば、神社仏閣の敷地等で樹幹が太く中が空洞の樹をイメージすると思いますが、平成16年度に実



施した間伐は、25%（138本、186m<sup>3</sup>）で、空洞になっている樹は殆ど無く、未だ樹冠の成長が止まっていないことに驚きがあります。

次に紹介したいのが、当技術・支援センターが所在する笠間市（旧笠間市）の高齢級ヒノキです。笠間市には、初詣に80万を超える人々が訪れる笠間稻荷神



写真3

城山国有林から旧笠間市内遠望

社があるほか、近年50万人以上が訪れるGW期間中のイベント「陶炎祭（ひまつり陶器市）」が今年も「芸術の森公園」で盛大に開催されます。

この陶炎祭会場の北側に、かつて天守閣が存在した笠間城跡（地元呼称は「佐白山」）があり、その麓の城山国有林251林班に林齢193年生（写真3）のヒノキ試験地を設定しています。

この地の政（まつりごと）は、山城に籠もる戦も無かったことなどから伐採されずに残ったものと想定されます。



ヒノキプロット  
胸囲270cm、高さ34m

写真4

251は林小班  
笠間城天守跡  
笠間県立自然公園内遊歩道

発行所 関東森林管理局  
 編集 総務課  
 TEL(027) 210-1158  
 FAX(027) 230-1393

今回は、歴史ある試験地を紹介しました。  
 双方への道のりは、自動車下車後、徒歩で30分程度の地であり、機会をみて歴史の旅にお出かけしてはいかがでしょうか。



プロット内調査

### きのこ特集

【なぞの毒きのこ】

スギヒラタケ(猛毒)  
(キシメジ科 スギヒラタケ属)

9月下旬から10月中旬にかけて、主にスギの切り株や倒木に群生しますがアカマツなどの針葉樹にも発生します。カサは半円形で5cm前後で大きい物は10cm位になり、表面は白色で平滑、ヒダは白色で直生します。柄は短くて、有るか判らない程度です。昔は食用きのこで、東北や北陸では缶詰や瓶詰を作って売られていました。

しかし、平成15年に秋田県でスギヒラタケが原因のきのこ中毒(死亡事故)が発生して以来、スギヒラタケは毒きのこになりました。

その後、大学や専門機関で成分分析が行われましたが、今だに毒成分は検出されていません。

現在も中毒が発生していることから毒きのこになっている**なぞの毒きのこ**です。



### 今月の表紙

「自然植生導入展示林(スギ低密度植栽試験地)」

(福島県棚倉町)

スギ低密度植栽試験地は、スギ主伐期(45年生)の本数に相当する600本/ha、2回目の間伐後に(35年生)の本数に相当する800本/ha、初回間伐後(25年生)の本数に相当する1200本/haを想定して間伐回数削減を目的に植栽密度を検討し平成9年度に設定されました。

低コスト造林の一環として検証されている低密度植栽試験地として注目されており、視察や研修等で活用されています。

